

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2297400042		
法人名	株式会社ブレインシステム		
事業所名	グループホーム水垂の里		
所在地	静岡県掛川市水垂126-1		
自己評価作成日	平成27年9月8日	評価結果市町村受理日	平成27年11月16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JivgoVoCd=2297400042-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構		
所在地	静岡県葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	平成27年10月17日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・利用者様1人1人の人格を尊重し、利用者が役割を持ち、身体拘束のない自立した日常生活支援に努めています。 ・地域行事参加、施設行事に近隣の人や家族参加を得て充実した地域交流に努めています。 ・食物による排便に努め、嗜好に合わせた飲み物、食物、行事食提供に努めています。 ・おむつ外しを行い、トイレ排泄に努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>開設当初からの理念を理解した職員が「尊厳を守る」、「地域交流を深める」に重きを置き、招待状が届く地区納涼祭では歌や踊りに興じ、水垂の里秋祭りには70名に向け案内を配り、地域に溶け込んでいます。また、ほんの一例ですが、離設保護では散歩で顔を知ってもらえていたことが役立ち、激しい異食に「薬は使いたくない」との共通意識を以て小腹を満たすよう食事回数を増やす苦心をおこない、ピック病の症状には一日5回以上の外出に根気よく付き添っています。その結果「現在は一日1~2回に収まった」と成功例も数多あり、「焦らず、ゆっくり、根気よく、接する職員の誠実でひたむきな取組みが光る事業所です。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員全員が理念を理解し、実践できるよう努力している。	ケアに悩んだとき「主体はどこ」と必ず基本に立ち返り、例えば「寝たくなるまで寝ない、起きたいときに起きる」といった基礎生活においても「尊厳を守る」という理念が職員主導で決断できていると管理者は感じています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方の理解の元、良好な関係を保っている。	地区納涼祭では歌や踊りに興じ、水垂の里秋祭りには家族・地域70名に向け招待状を配り、双方向のやりとりがあります。施設保護も普段から散歩で顔を知ってもらったことが役立ち、事なきを得ています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	利用者が地域のイベントへ、地域の人々は施設のイベントへ参加し、交流を図っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に一度、運営推進会議を設けご家族様の意見を聞き業務に活かしている。	行政、地域代表者、家族などをメンバーとし、奇数月の開催が叶っています。予め脱水、感染症と時節に即したテーマを用意して話し合いを行い、その後施設見学と茶話会も設けてコミュニケーションを大切にしています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	施設長、ケアマネが事業所連絡会に参加している。	運営推進会議開催には市役所ならびに地域包括支援センターに毎回お知らせを出しています。事業所連絡会地域密着型部会では事業所間の情報交換もあり、ヨコの連携もっています。	「報告する事故など1件もなかった」ため管理者が直接窓口を訪問することはなかったとのことですが、無理のない範囲でお知らせを直接届けるとか、顔を合わせる機会を増やすことを期待します。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束ゼロ宣言を県に提出している。日中は、玄関の施錠をしていない。	昼間は玄関、ユニットともに施錠はなく、早朝離設が起きてからは夜間は門扉を閉めることとしています。センサーマットは拘束と捉え使用せず、利用者一人ひとりの行動特性を把握するなか夜勤帯の物音には高リスクの人のもとに駆け付けることが根づいています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員が順に身体拘束フォーラムに参加している。利用者様の身体観察に注意を払っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社内研修を通し学ぶ機会はあるが、知識不足を感じる。 全スタッフが理解し活用できるようにしたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	施設長、ケアマネが中心となり、十分な説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や電話対応の中で、ご家族様の要望や意見を尋ね、日々の業務に活かしている。	面会には「何かございませんか」と必ず尋ねていますが、家族からは「これだけ良くしてもらえたら安心」との声が聞かれ、特段の要望は挙がっていません。外部評価の家族アンケートでも感謝の言葉ばかりでした。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議等で、全スタッフが意見を言える環境に努めている。	会議は遅番、夜勤以外全員出席で時間外手当も付き、管理者主導ではなく核となる職員を中心に「現場において現場が納得できる課題解決」があります。職場を離れた女子会もありチームワークが堅固です。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各自、やりがいを見つけ、向上心を持ち、働けるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修だけでなく、様々な研修に参加し、各自支援の向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修などで他施設の同業者との交流できる機会を設け、サービスの質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	日々の中で常にご本人様の要望を聞き入れるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設長、ケアマネが主となり、又担当職員がご家族様の要望を聞き、良好な関係を保っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様、ご家族様の必要としている支援を提供できるよう努力している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人様と共に生活の中でできることを共に行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	施設での活動、イベントに出来る限りご家族様にも参加して頂き、交流できる機会を提供している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人様がこれまでの生活で関わった人とも散歩等で関わる事ができている。	家族の居室での寝泊りも受け入れています。「家族に勝るものはない」としていますが、例えば「閉鎖された空間が悪影響となる場合は共用空間での面会をお願いする」といった個々の症例によって制限もあります。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士がお互いを尊重し合って関わりが保っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	電話相談等の受け入れ関係を断ち切らないよう努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	1人ひとりの意志を把握し、思いを受けて入れる努力をしている。	「物事を一緒におこない、その人のこだわりを知ろう」との考えをもち、ケアプラン第一表『家族の希望』『本人の希望』をユニット会議で周知させ、定期のほか必要に応じてカンファレンスを開き実践への共有を図っています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活歴等をご本人様、ご家族様より聞き入れ把握できるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご本人様が落ち着いて生活できるよう居場所づくりに努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスや朝のミーティング(送り)等で、担当者を中心に職員、ケアマネで話し合い介護計画をたてている。	カンファレンスで職員意見を収束し、法人三事業所兼任ケアマネージャーがプラン化しています。サービス内容は「帰宅願望を想起させないようソファーに誘導したりボール投げを行う」と、具体的に記載されています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録、連絡ノート、通院記録を利用し、ケアの統一を図っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々ニーズに対応できるよう心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご本人様がその人らしく生活できるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人様、ご家族様の希望を大切に、施設での生活の様子を担当者が手紙を書き適切な医療を受けられるよう支援している。	全員がかかりつけ医を継続、日頃の状態を記した手紙とバイタルチェック表を添えて家族に受診をお願いしています。また11月1日より医療連携体制が整い、訪問看護事業所が24時間オンコール対応となりました。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師はいないため、変化にいち早く気づき、かかりつけ医や協力医に対応を求めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	看護サマリ、退院サマリ、又は電話等で情報交換している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人様、ご家族様の意見を聞き、又チームでも話し合い支援できるよう取り組んでいる。	この一年間お見送りはありませんが「自然な老衰」における看取りをおこなう方針で、過去には余命1ヶ月での受入れもありました。契約時、書面にて救急救命等延命処置を聴取していますが、「そのときになってみないと…」という家族が大半を占めています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	対応マニュアルを目に見える所に貼り、急変時対応出来るようにしている。 職員の緊急連絡網の訓練を行う。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練、消火訓練を行っている。 全スタッフが対応できるように努めている。	年2回実施、内一度は消防署職員の立ち合いがあり、避難経路についてアドバイスを得ています。夜間想定では警報機から4～5分かかり迅速さへの課題を残していますが、近隣住民の協力承諾は得られています。	次の2点の進捗を期待します。『福祉避難所となっているため防災倉庫の備蓄管理の推進』『オール電化のため停電対策の推進(現在発電機なしのため)』

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	1人ひとりに合った対応を全スタッフで統一できている。	『申し送りは離れた場所で、時には筆談を交える』『トイレ介助は用が済むまでドアを開けずに外で待つ』『記録に“失禁”や“徘徊”という言葉は遣わない』…とルールが明確で、職員も遵守しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	生活の中で、ご本人様の思いや希望を取り入れ自己決定できるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1人ひとりのペースに合った支援ができるよう心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出時やイベント時は、普段よりもおしゃれな洋服を着て頂けるよう配慮している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご本人様が「今日はやるよ」と言って頂けた際に食事の盛り付けや片づけを行ってもらっている。おわん拭きに行っている。	業者からの食材はカロリーが計算され、糖尿病でも量を調節して食べたいものを我慢することなく食事が愉しめています。米麴と冷飯で作る甘酒のほか行事食は手作りで、節分の恵方巻は皆で巻いて賑わいました。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量を1人ひとりに合った量を職員で話し合い提供している。 主食はgで決めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食時、口腔ケアを実施している。 月2度の歯科往診で、指導を受け対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレでの排泄を積極的にすすめている。布パンツにパッド対応と夜間帯も可能な限りオムツ外しに取組んでいる。	パターンが掴みきれない1名を除き、日中は失敗を未然に防ぐことができます。また本人希望で紙パンツを使う人もいますが、長時間の外出とならない限り全員布パンツとパッドで昼夜過ごしています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取量の把握を行い、又散歩や食事、毎朝のヨーグルト、野菜ジュースで、便秘薬を減らし、自然な排便コントロールを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週に2～3日の入浴をすすめている。外出や通院などその日のご本人様の負担にならないよう気を付けている。入浴剤を取り入れ入浴への拒否を減らしている。	間2日空かないよう努め、また入浴がない日は酢5cc配合の足浴をおこなっています。湯は一人ひとり張り替え、浴剤7種類(桜、ゆず、レモン、森林浴、いちご、りんご、桃)から選んでもらい、好みの湯に仕上げています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	1人ひとりに合わせて、午後に臥床時間を作り休息の時間をつくっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全スタッフが理解はできていないが、薬の変更があった際には全スタッフが確認し、様子の変化をみていくようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事活動を職員と共に行ったり、外出、レク活動を積極的に行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	可能な限り、職員と散歩に出かけ気分転換を図っている。天気の良い日には遠出にドライブに出掛けることもある。	外出は『気分転換』『新たな発見』『季節感を味わう』ものとして月に一度ドライブにでかけていますが、廃用症候群防止を配慮して安易に車椅子に頼ってはいません。週1度敷地内でオカリナの演奏会があり、外気浴を兼ねて音色に耳を傾ける人もいます。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	契約上個人管理はしていないが、外出時や、ご本人様が欲しい物があった場合は、ご本人様了承の上、立替えて購入できるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人様の協力を得て、ご本人様の希望があった際には対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間には常に清潔に整理整頓している。壁面等、季節感を取り入れたり、外出先での写真を飾る等している。	玄関には家族から贈られた大輪の百合が鎮座し、独特な優しい香りを放っています。ただし、異食の利用者がいるためリビングに植物はありません。食事スペース以外に寛ぎや遊びの場が確保され、感染症対策は除菌水での清掃、噴霧が慣行されています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	1人ひとりの居場所づくりを提供している。ソファや職責でご本人様の落ち着いた場所で過ごさせている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していた物を持参し、居心地よく過ごせるよう工夫している。	衣替えは家族に依頼していますが、『洗濯物はきちんと収納』『ベッドメイキングは遅番が担当』『ラバーシーツ(防水シーツ)は見えないように』と職員がきめ細やかに対応しているため、整然として清潔です。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	「トイレ」「自室」の名義を付けて、場所を把握できるよう努めている。		